

「会議は存続するまいナス」

昔「会議は存続するまいナス」

「ココ調子でいかにいかに」

「クタイの神はあきらみ」

「どんたのし話をしてい」

「うよろごきせんりわ」

「突如ヨルニカ島」

「とせに水をひくよう」

「はす」と消云々」

「このシ」

「手札が」

「本日午後三時」

「存す」

「あり」

「者」

「どんた」

「期待と不」

「うたが」

「会議が」

「手札」

にたりむ 「イェ有んか父要るん ンあるし
 ンして「お茶の用意 ~~お茶~~ をふねかいし
 有す」 「お茶ですか」と不満がぶだ
 有んと出て来た場りみはまち子ちの六才だ
 てまじり有す 目をつさる

さて余員そろつてスミート 司会がわかろる
 いアアマヤが司会をしな それを自己紹介
 をするやうでもなく「リンビリの担当者が私の
 案件について腰痛の問題を発言した 腰痛
 痺イヌにのつた腰バズを石ルをたこにまじし

栗

と左横はふりに入らるから痺のりだ 若い同
 かかつて「バズを石ルをいれろやめてもらう
 ったら腰痛はたんだんよくなつて来た

今アアマヤと「リンビリ」担当とニくで話をしついで
 ん 他のメとたいに話をうながす子むも有る

す有んだ このさいおねがひしたいと眼科
 有る種々の診察をヒメんだら「アアマヤ」イヌかう

たうと「~~お茶~~」大声で「自分でまじし自分で行
 きなさい」ということになりた

この半年の介護の現実だ ぶくわかつた

自分でさがそう

今日のさうきへいぐいばハリでなり 他は

とでもあいくしてくわゆる人達だ

そい下かやび 雨角 ス々トの決心がぬ柔た

のこまおたんをばあすおた 心ひろむらと

まごすにせにした